

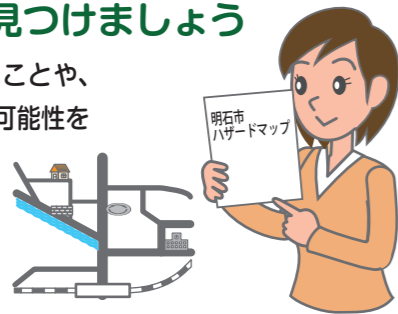
目次

1. はじめに 1	3. 地震・津波 21
(1) ハザードマップの使い方 1	(1) 市に大きな影響を及ぼす地震 21
(2) 家族や地域で考える 2	(2) 地震時の行動 23
2. 風水害 3	(3) 津波ハザードマップ 25
(1) 風水害の概要 3	避難場所一覧表 29
(2) 大雨時取るべき行動 5	わが家の避難計画 裏表紙
(3) 風水害ハザードマップ 7	

(1) ハザードマップの使い方

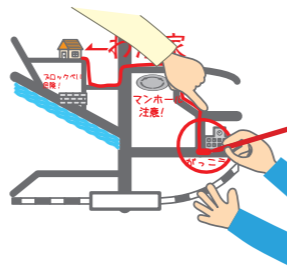
1 ハザードマップで自宅を見つけましょう

自宅に洪水が来ることや、がけ崩れが起こる可能性を確認しましょう。



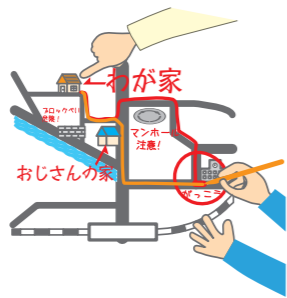
2 避難する場所を確認しましょう

洪水や土砂災害から避難方向を確認しましょう。立退き避難が必要な場合は適切な避難先を確認し、大きな印をつけるなどして災害時に備えましょう。



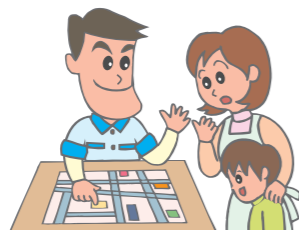
3 安全な避難経路を決めましょう

大雨の時に危険となる水路や橋、アンダーパス・地下道、浸水の危険性がある箇所や土砂災害警戒区域などの場所を確認、避難経路を複数決めておきましょう。



5 家族で災害時の対応を話し合しましょう

災害時の行動について、家族と話し合い、わが家の避難計画(裏表紙)を作成しましょう。



4 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。



6 学校や近所で考えましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合い情報を共有しましょう。高齢者など避難に支援が必要と思われる方についてもみんなのできることを考え、避難の際に協力しましょう。

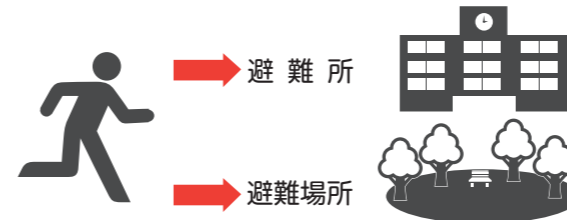


(2) 家族や地域で考える

災害時の避難行動

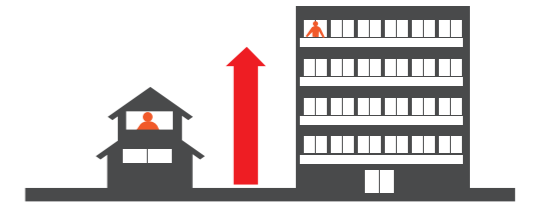
避難行動には、避難所への「立退き避難」や、近隣の安全な場所(近隣のより安全な場所・建物等)への「立退き避難」、逃げ遅れたときに、その時点で居る建物内でより安全な部屋等へ移動する「屋内安全確保」があります。

立退き避難(水平避難)



屋内安全確保(垂直避難)

逃げ遅れた場合



非常持出品、非常備蓄品

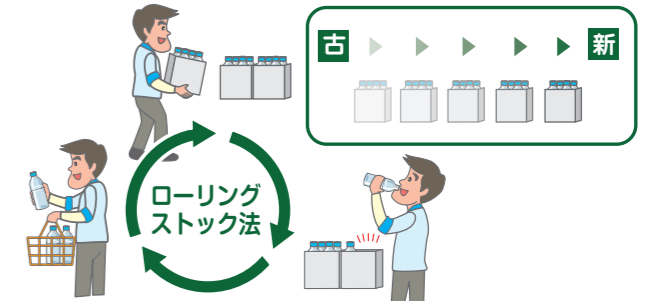
非常持出品

- 飲料水
- ビニール袋・ポリ袋
- 携帯電話・スマートフォン・充電機
- 携行食(ビスケット・チョコレート・栄養補助食品など)
- タオル・下着・靴下
- 通勤・通学圏内が分かる地図
- トイレ用紙・ティッシュ・ウェットティッシュ
- 万能ナイフ
- 食品包装用ラップ
- 処方薬・常備薬・お薬手帳
- 携帯ラジオ・懐中電灯・乾電池
- 衛生用品・生理用品
- 保険証のコピー・メモ用紙・筆記用具
- 現金(小銭を用意)

非常備蓄品

非常備蓄品とは、被害が回復するまで自活するための備蓄品です。

普段から少し多めに食材や加工品を買っておき、一定量に保ちながら、古いものから消費し、購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることができます。(ローリングストック法)

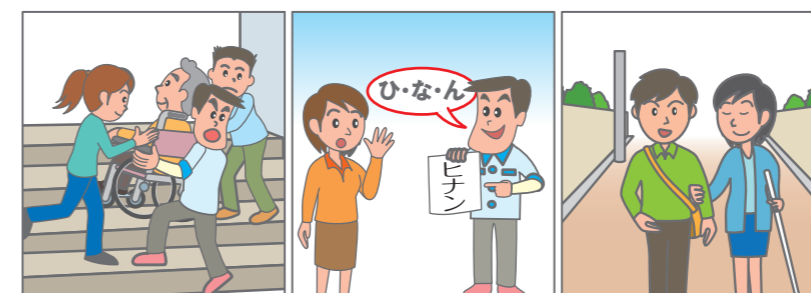


帰宅困難時の対応を考えてみましょう

公共交通機関の運行停止などに伴い、職場など外出先にいる人は帰宅が困難になることが予想されます。帰宅困難時に何が必要になるか考えてみましょう。また、災害用伝言ダイヤル「171」を利用するなど事前に家族全員で話し合っておきましょう。

地域で助け合いましょう

身体が不自由な人、お年寄り、子ども、妊婦、外国人などは、災害時の避難行動が遅れがちになります。地域で協力し、助け合いましょう。



肢体不自由な人 耳が不自由な人 目が不自由な人

防災訓練に参加しましょう

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、自主的に連携して防災活動を行う組織です。市では自治会などを中心に結成されています。お住まいの地域に自主防災組織があれば、積極的に活動に参加し、地域で防災活動に取り組みましょう。



〇〇〇〇防災講座 防災訓練

1 はじめに

2 風水害

3 地震・津波

1 はじめに

2 風水害

3 地震・津波